

令和6年度

総務企画常任委員会行政視察報告書

令和6年5月8日（水）～ 9日（木）

静岡県沼津市・静岡県富士宮市

視 察 報 告 書

次のとおり実施したので報告します。

1 期 間	令和6年5月8日(水)～ 5月9日(木)	
2 場 所	静岡県沼津市	静岡県富士宮市
	人口 186,676人	127,558人
	面積 186.82平方メートル	389.08平方メートル
3 調査事項	総務企画行政について ・移住・定住促進の取り組みについて	総務企画行政について ・ふるさと納税を活用した関係人口創出について
4 視察内容 所感等	別紙のとおり	
5 視察議員 氏 名	【委員長】木村得道 【副委員長】西川佳克 【委員】椎名幸雄 澤田敦士 芹澤正子 佐々木豊治 深井優也	
6 資 料	別添	

令和6年5月27日

我孫子市議会議長 様

総務企画常任委員会 委員長 木村 得道



総務企画常任委員会 行政視察報告書

視察地 令和6年5月8日(水) 静岡県沼津市
令和6年5月9日(木) 静岡県富士宮市
出席者 木村得道委員長、西川佳克副委員長、椎名幸雄委員、澤田敦士委員、芹澤正子委員、佐々木豊治委員、深井優也委員
随行者 高見澤隆企画総務部長、関千尋主任主事

(1) 静岡県沼津市

市制施行 大正12年7月1日

人口 186,676人、93,608世帯(令和6年4月1日現在)

面積 186.82km²

視察日時 令和6年5月8日(水) 13時30分～15時

視察場所 沼津市役所

調査内容

・移住・定住促進の取り組みについて

まちの活力や発展を支える定住人口の確保に向け、出生率の減少傾向に歯止めをかけ、社会動態を改善していくことが必要であるとの見解を持った沼津市では、富士山の絶景や海の幸に恵まれた大地、東京・名古屋方面のアクセスの良さを活かし、移住施策の推進、まちなか公共空間の整備、健康長寿の推進など、沼津に住みたい、住み続けたいと思えるまちづくりを推進している。

なかでも、移住・定住促進の取り組みについては、お試し移住補助金や移住・就業支援金等さまざまな補助・制度を設けたり、沼津市に愛着を持ち移住者を支援している地元の民間企業と連携したお試し移住を実施している。そのほか、移住後の悩みを解消し、安心して沼津市で暮らせるように移住者同士のミーティングを行うなど、取り組みは多岐にわたっている。年間移住者数は7年間で9人から235人にまで増加した。

沼津市では令和5年度より移住定住推進室が主管となり、「ぬまづ暮らし」～移住・定住促進の取り組み～を実施し、主に4つの施策を推進している。また、「ぬまづ暮らし」は市のホームページから「静岡県沼津市移住・定住ポータルサイトぬまづ暮らし」へアクセス可能であり、市の取り組みを閲覧できるようになっている。

【施策1】相談対応

新型コロナウイルスにより直接対面での相談が難しくなったことから、オンライン移住相談などを実施。自宅にいながら移住相談ができ、相談会や相談窓口に行く必要もないため気軽に利用できる。利用は、ポータルサイト内のフォームからの事前予約制としており、相談日は土日を除く3日前までに予約、担当者にご案内の日や内容などを調整し、市より予約者のパソコンなどに招待URLを送付、相談日当日は、招待URLよりZOOMを活

用し相談できる。相談日は平日の午前10時から午後4時までとし、原則40分の相談会、費用は無料となっている。対象は市外在住の移住希望者で沼津市が気になっている人としている。

また、LINEでの相談を令和6年2月より実証実験しており、移住・定住相談のネット化を図り、興味のある方が気軽に相談できる施策を実施中となっている。

なお、対面での相談会を実施しており、静岡県が開催する移住相談会（年2回）と沼津市が単独で開催する出張相談会（令和5年度は4回）を東京交通会館で実施しており、静岡県が主催する相談会では移住セミナーや、静岡県に移住された先輩移住者からの体験トーク、質問会など相談会の参加者が興味を沸かせられるような内容の充実を図っており、参加者も増えている。また、沼津市が単独で実施している出張相談会は事前予約制で毎回満席となっている。

その他、実際に沼津市を訪れる方々のために、商業組合静岡県タクシー協会沼津・三島支部と連携し、無料タクシー案内を実施、訪問者が希望するエリアや市職員のおすすめスポットなどを一緒に巡り市内移住・定住のサポートを実施、移住に役立つ情報やサービスの提供などを行う個人・団体及び事業者で構成された（30の個人・団体・事業者）が移住希望者の移住計画から実際の移住・定住までをトータルでサポートしている「ぬまづ暮らしオススメ隊」と連携し、移住・定住の取り組みを実施している。

【施策2】情報発信

インターネット広告の配信や日常の何気ない写真を「#ぬまづ暮らし」を付して投稿するSNSを活用したキャンペーン、ホームページのリニューアル、移住PR動画の活用や近隣市との合同移住体験バスツアーなど精力的に実施している。

【施策3】補助金の交付

移住・就業支援金、移住者支援交通費補助金、お試し移住補助金など国の補助金制度も活用して交付している。

【施策4】定住支援

移住した方同士の率直な意見交換や交流の場として、移住者交流会を開催し、移住後の生活の楽しみ方や移住前の暮らしとの比較をすることで、安心して定住していただくための環境づくりやコミュニティの形成を進めている。

○所感

沼津市への定住人口の確保のため、市と市民、団体・事業者が連携し、移住相談から定住支援まで一貫したサポート体制を構築しているところに市担当者の熱心さを感じた。富士山も含め海と山に恵まれた自然環境や東京・名古屋方面のアクセスの良さなどもあり衣食住への相談もしやすい環境でもあるが、市だけでなく不動産会社や交通機関その他地元企業や団体との連携で移住定住策を進めている沼津市の取り組みは、我孫子市にとっても大変に参考となると思う。

(2) 静岡県富士宮市

市制施行 昭和17年6月1日

人 口 127,558人、58,973世帯(令和6年4月1日現在)

面 積 389.08km²

視察日時 令和6年5月9日(木) 午前10時30分～12時

視察場所 富士宮市

調査内容

・ふるさと納税を活用した関係人口創出について

富士宮市は、富士山の南西麓に位置し、富士山を御神体として平安初期に造営された富士山本宮浅間大社(全国の浅間神社1,300余社の総本宮)の門前町として栄え、また、平成25年6月22日に富士山が世界文化遺産に登録された。歴史、文化とともに広大な森林や湧き水などに恵まれた自然豊かなまちである。

また、富士宮市の総合計画では、将来都市像「富士山の恵みを活かした元気に輝く国際文化都市」実現のための諸施策を実施し、総合的、横断的に推進するとともに、民・産・学・官がそれぞれの役割を分担しながら、協働して取り組んでいる。

富士宮市では、ふるさと納税が令和4年度は約42億円で25万件。県下2位、全国35位の実績であった。このふるさと納税の返礼品の特徴は、日用品を中心としたトイレットペーパー(64ロール、1万7千円)などが90%以上を占め、その他飲食物、工業・工芸製品(将棋の駒)、ゴルフ、パラグライダーなど450種類のバラエティー豊かな返礼品が用意されているとのことであった。

主な要因としては、日用品の返礼品は継続的な寄附者(リピート率)が見込まれることから、安価な値段に設置しているとのこと。また、返礼品を送るだけでなくアンケート調査や応募者の中から抽選で「コト返礼品」と表し、富士宮市に訪れてもらい体験を通して地域の魅力や人との交流へと繋げようとする企画があるとのこと。この仕組みづくりを実践していくことで、訪れた人々が地域や人との関わり(交流人口)をより深め、定住へと導く(定住人口)流れを構築する。

さらに、具体的な取り組みの事例として、地域で体験を行う「コト体験キャンペーン」、移住と仕事を体験する「ワーケーション推進キャンペーン」、女性をターゲットにし、キャンプやアウトドアを楽しむ「美トリートキャンプモニター体験」など様々な企画を実施。

ふるさと納税から始まり企業や地元、団体との連携とともに連続した「仕掛け」を行うことで、富士宮市がもつ伝統行事、自然環境、観光資源、食などと融合させた企画の継続。さらに、地元出身のクリエイターによるコラボによる発信などを実施し、コンテンツ情報の充実と強化を図る取り組みであった。

○所感

今回の行政視察において、富士宮市は、世界文化遺産の富士山、富士山本宮浅間大社、流鏝馬など、自然と歴史文化に恵まれた自治体であると感じた。また、初代B1グルメグランプリとしても有名な富士宮やきそばは、令和3年度に文化庁が選ぶ100年フードに認定され、企画力や全国へのコンテンツ発信力に長けていると感じた。

地域の魅力を発信する取り組みについては、地域経済を活性化し、交流人口から定住人口へと繋げる大切な施策であり、各自治体が様々な取り組みを講じている。一方、人口減少、少子高齢化に伴う諸問題や収税減は多くの自治体の課題でもある。

今回の調査内容である「富士宮市のふるさと納税を活用した関係人口創出について」の中で、ふるさと納税寄附額が令和4年度約42億円（25万件）、県下2位、全国35位という実績には驚いた。他市県へのふるさと納税額は1億7千万円で寄附額が大きく上回っていた。この返礼品の中心は、ブランド力を持つ大手企業との連携が大きな要因であったが、企画部企画戦略課地域政策推進室の回答では、寄附者をリピートさせるノウハウやその次へと繋げていく戦略が重要であるとのことで、交流人口から定住人口への移行と取り組みは参考になった。

また、第35期竜王戦の藤井聡太VS 広瀬章人の対局を実現した企画は有名人を呼ぶ秘策として非常に参考になった。様々な企画・アイデアを持ち寄り魅力ある我孫子市を発信するとともにふるさと納税寄附金・寄附者を増やす取り組みが必要であると考えます。